

## 第9回 これからの学術情報システム構築検討委員会議事次第

日 時：平成27年1月21日（水）13:00-17:00

場 所：学術総合センター 12階 1208会議室

出席者：配付資料参照

### 議事

#### 委員長選任

1. 前回議事要旨確認 (資料 1)
2. 電子リソースデータ共有ワーキンググループの活動について (審議) (資料 2)
3. ISO-ILL の今後について (審議) (資料 3)
4. 宮澤先生との意見交換
5. CAT2020 提議について (審議) (資料 4)
6. 平成27年度計画について (審議) (資料 5)
7. その他

### 配付資料

#### 委員名簿

1. 第8回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1. 電子リソースデータ共有ワーキンググループ報告
- 2-2. これからの学術情報システム構築検討委員会規程 (改定案)
- 2-3. 新旧対照表
- 2-4. これからの学術情報システム構築検討委員会作業部会規程 (案)
- 3-1. ISO-ILL プロトコル対応の一方策：エージェント方式(案)
- 3-2. ISO プロトコル変更に対する NACSIS-ILL の対応について (検討結果) (案)
- 4-1. 2020年目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) 再考のための提議
- 4-2. 今後のコンテンツ事業構想について
5. 平成27年度計画について (案)

これからの学術情報システム構築検討委員会委員名簿

氏名	所属・役職	備考
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授	委員長
熊淵 智行	東京大学附属図書館 情報管理課長	
甲斐 重武	京都大学附属図書館 事務部長	
渡邊 俊彦	鹿児島大学 学術情報部長	
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査	
原 修	立教大学図書館 利用支援課 課長	
近藤 茂生	立命館大学図書館 図書館次長	
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授	
小山 憲司	日本大学 文理学部 教授	
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長・図書室長	
相原 雪乃	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長	
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長	

## 第 8 回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：平成 26 年 10 月 27 日（月）15：00～17：30
2. 場所：学術総合センター 20 階 GRACE センターミーティングルーム
3. 出席者：

(委員)

佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授（委員長）
熊淵 智行	東京大学附属図書館 情報管理課長
甲斐 重武	京都大学附属図書館 事務部長
渡邊 俊彦	鹿児島大学 学術情報部長
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査
原 修	立教大学図書館 利用支援課 課長
近藤 茂生	立命館大学図書館 図書館次長 兼 図書館管理課課長
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授
小山 憲司	日本大学 文理学部 教授
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長・図書室長
相原 雪乃	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

(事務局)

吉田 幸苗	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館 連携チーム係長（NACSIS-CAT/ILL 担当）
古橋 英枝	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館 連携チーム係員（NACSIS-CAT/ILL 担当）

&lt;配付資料&gt;

委員名簿

委員会規程

1. 第 7 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨（案）
- 2-1.これからの学術情報システム構築検討委員会審議の経緯
- 2-2.第 8 回連携・協力推進会議議事要旨（抜粋）
- 3-1.電子リソースデータ共有ワーキンググループの設置について
- 3-2.第 1 回電子リソースデータ共有ワーキンググループ議事次第
- 3-3.ERDB のナレッジベースに登録されているデータの公開について
4. 目録の将来検討のための委員会活動（案）
- 5-1.今後の GIF プロジェクトの在り方について（検討結果報告書）（抜粋）
- 5-2.ISO プロトコル変更に対する NACSIS-ILL の対応について（依頼）（第 8 回連携・協力推進会議資料）

### 5-3.日米 ILL, 日韓 ILL の現況

6. [総合目録データベースのデータ公開サイト]

7. [これからの学術情報システム構築検討委員会サイト]

#### 参考資料

1. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理【まとめ】

2. 目録の将来検討 WG の設置について（提案）

#### 4. 議事：

議事に先立ち、全委員から自己紹介があった。

また、「これからの学術情報システム構築検討委員会規定」に基づき、互選により委員長として佐藤委員を選出した。

##### (1) 前回議事要旨（案）確認

佐藤委員長から資料 1 に基づき前回議事要旨（案）について確認があり、原案どおり承認された。

##### (2) これからの学術情報システム構築検討委員会審議の経緯

佐藤委員長から資料 2 に基づき、本委員会の成立・ミッションおよび審議の経緯について説明があり、各委員から以下のような意見があった。

- 本委員会での審議内容の共有について
  - 国立大学では共有されていないように感じているので、今後は伝達を密にしていきたい。
  - 私立大学も各機関の職員レベルでは研究・調査はなされているだろうが、日常的な意見交換はされていないように思う。
  - 特に（国立情報学研究所：以下 NII）安達副所長の（連携・協力推進会議での）発言は各大学が目にしたときに突然のことと考えないように説明が必要である。
- 連携・協力推進会議での NII 安達副所長の発言について
  - この発言の趣旨は、現在の目録所在情報サービスは 30 年以上前に当時の文部省を中心に練られた構想であり、技術の発展や国際的なデータ交換が当然のこととなる中、システムの構造やコスト負担の方法について根本的に見直す必要が出てきた、ということだと認識している。
  - 運営面についても課題や矛盾が多くあり、この解消にも取り組む時期が来た、と理解している。
- なぜ 2020 年が節目になっているのか
  - 次回のリプレイスが 2016 年度末で次々回が 2020 年度末である。
  - 国立国会図書館の目録規則の見直しも 2020 年である。
- 本委員会の今後の議論の方向性について
  - 「現在のような目録システムは終了している」＝「NII が撤退する」という話ではない、ということだけは明確にしておく必要がある。

- 従来のように本委員会が複数の選択肢を報告書で提示して各大学図書館協会が選択するのではなく、推奨案の提示まで踏み込む必要がある。
- NII が現在抱えている課題は主にコストに関わる部分だが、その解決だけにこだわらず、大学図書館側が主体となって本委員会を課題解決の場として利用していただきたい。

### (3) ERDB のナレッジベースに登録されているデータの公開について

事務局より資料 3-1, 3-2 に基づいて ERDB プロトタイプ構築プロジェクトの経緯と本委員会の下に設置された電子リソースデータ共有ワーキンググループ (以下 WG) について説明があった。

さらに WG で協議された ERDB データのライセンスについて 3-3 の資料に基づいて説明と提案があり、データの活用事例もあわせて紹介があった。

審議の結果、ERDB に含まれるデータのライセンスはカテゴリごとに明確にすること、「国内刊行のオープンアクセス誌」の運用を検討する際には大学図書館が作成したデータは CC0 になるということを盛り込むことを前提に承認することとなった。

- 今後の ERDB の活用を考えると WG が提案している「ERDB は CC0 で運用し、ライセンスに合わないデータは登録しない」という書き方は今後のデータ登録を阻害しかねない。
- CC0 にするための DB ではなく、電子リソースを管理する DB である。商用のデータも CC0 で公開される流れがあるのは確かだが、これを受けて CC0 しか登録しないというのは本末転倒に思える。
- 登録データと公開データはイコールではなく、ライセンスも別々になる。CC0 で公開できるものだけを公開する、という話ではないのか。
- ERDB に登録されているデータのカテゴリごとに慎重に議論する必要がある。大学図書館が作成する「国内刊行のオープンアクセス誌」のライセンスが課題なのであれば、限定して議論すべきだ。
- ERDB の運用を決めるときに「国内刊行のオープンアクセス誌」の登録データは CC0 で公開する、とすればよい。

### (4) 目録の将来検討のあり方について

高橋委員から参考資料 2 に基づいて検討経緯の説明があり、続けて資料 4 に基づいて委員会の今後の活動案が示された。

本件については、次の議論を事務局でまとめた上で、前回設置を決めた目録の将来検討ワーキンググループのミッションについては ML で審議することとなった。

- この先半年間の活動について
  - 今年度中に各会議で議論ができるような大きな方針・資料作りが必要である。議論の土台作りを急がなければ 2020 年に間に合わないのではないか。
  - NII 内での検討項目について、情報が不足している部分については改めて検討が必要である。まず NII には 2020 年に現行の枠組みを維持することは厳しい、と言う

のであれば、それをきちんと表明していただきたい。

- ▶ 各機関の意識は、NACSIS 開始時は「共同分担」であったが、現在はすでに「参加館」というより「ユーザー」という意識なのではないかと思われる。その理由として外注したこと、コストカットへの圧力が強いこと、大学全体が学習支援へシフトしていることの 3 点が考えられる。この状況を鑑みると、本委員会での議論と現場の意識とに乖離を感じる。何を議論するのか、と同時にどのようにして各機関に提案していくのか、ということも同じくらい重要である。
- ▶ 作ることへの意識は低くなっているけれど、使うことへの意識が落ちたわけではないと思っている。「どう使ってもらうのか。どう役立っているのか」というアピールが必要なのではないか。

#### (5) ISO-ILL の今後について

事務局より資料 5-1, 5-2 に基づいて、本委員会で本件を検討することになった経緯について説明があり、日米・日韓 ILL の現状について 5-3 の資料が示された。

本件については次のような議論があり、事務局で案をまとめて ML で審議とすることとなった。

#### ● ISO 変更への対応について

- ▶ もう少し時間をかけて考える必要があるのではないか。新プロトコルの様子を見ながら対応をしていくというのはいかがか。
- ▶ 日米間の場合の米国側の窓口は NCC になるが、先方は ILL の充実よりも日本の資料の電子化の進捗のほうに強い希望を持っている。

#### (6) 規程改定について

委員会規定に基づいて佐藤委員長より任期の変更（8 月～翌年 7 月→4 月～翌年 3 月）について報告があった。

#### (7) データ公開サイト開設について

資料 6 に基づいて事務局より報告があった。

#### (8) 委員会サイト開設について

資料 7 に基づいて事務局より報告があった。

以上

平成 27 年 1 月 21 日  
電子リソースデータ共有ワーキンググループ

電子リソースデータ共有ワーキンググループ報告

1 ミーティング報告

以下の通り、平成 26 年度 2 回目のミーティングを開催した。

1) 日時：平成 26 年 12 月 4 日（木）14:00－17:00

場所：国立情報学研究所 21 階ミーティングルーム

出席者：(委員) 平田（横国大）(主査)、小野（一橋大）、塩野（京大）、古賀（慶應大）、  
大前（JUSTICE）、吉田、片岡、古橋（以上 NII）  
(陪席) 相原、高橋（以上 NII）

2) 議事要旨

(1) 運用方針および運用体制について集中的に検討し、以下の通り案を作成した。

(ア) データの収録対象

- ① 日本語のデータまたは日本で出版された電子資料のデータを登録する。
- ② J-STAGE, NII-ELS のデータは登録しない（現状のまま）。
- ③ 無料誌だけでなく、有料誌のデータも登録する。
- ④ 大学図書館が登録するデータだけでなく、出版社が提供するデータも登録する。

(イ) 運用体制

- ① 親委員会の下に置く運用組織のメンバーが運用主体となる。
- ② システムメンテナンス（開発等）は NII が担当する。
- ③ ユーザ管理／発行・問い合わせ窓口等は運用組織メンバーが担当する。役割分担は運用組織の中で決める。

(ウ) 運用ポリシー

- ① データ編集  
誤作業は全般的に許容し、厳格なマニュアルの作成等を行わない。
- ② データ利用  
ユーザ登録していないユーザ (anonymous user) もデータ利用可能とする（ただし、機械的なアクセスを防止するため、キャプチャ認証などを搭載）。
- ③ ユーザ登録申請による義務  
申請画面に (エ) ④の権限を義務として明文化しておく。ただし強制力は持たせない。
- ④ データの完全削除  
自動的な URL リンクのチェックを行い、エラーが 3 回連続した場合はステータスを非掲載にする。なお、非掲載データのメンテナンスは運用開始後に検討。

(エ) ユーザ登録

- ① 登録開始日：2015 年 4 月 1 日から登録受付を開始。
- ② ユーザ登録申請方法：Web フォームから申請。なお、anonymous user は申請不要。

- ③ ID/PASS 発行対象：発行対象は個人ではなく、組織単位とする。大学図書館以外に出版社や KB ベンダーにも ID を発行する。
- ④ ユーザ権限  
以下の権限を設定し、希望する機関に発行する。

	データ登録	データ修正	データ削除	登録申請の承認	備考
anonymous user	申請のみ可	申請のみ可	申請のみ可		
authenticated user	可能	可能	可能	可能	自分がオーナーのデータのみ管理作業可能
contents administrator	可能	可能	可能	可能	全てのデータの管理作業可能

※ anonymous user 以外

新規登録・修正作業を直接行う。また、anonymous user からのコメントの反映および新規登録申請の承認作業を行う。パッケージ単位で一括登録されたデータについては、登録機関に authenticated user の ID を発行し、管理を依頼する。

(2) 2015 年 4 月以前の WG 作業および 4 月以降の運用組織の業務

4 月までに準備が必要な項目について以下のように決定し、WG 委員に分担された。また、4 月以降運用組織内で発生する業務を明らかにした。

(オ) 2014 年度内の準備作業

運用組織の設置に係る規則案の作成、マニュアル作成等

(カ) 2015 年度以降の運用組織内の業務

- ① システムメンテナンス
- ② ID/PASS 発行申請・発行窓口
- ③ ID/PASS 発行・管理
- ④ 一般的な問い合わせ窓口
- ⑤ マニュアルのメンテナンス

## 2 提案

上記運用方針案についてご審議いただくと共に、これからの学術情報システム構築検討委員会の下に運用組織を設けることについてご審議いただきたい。

以上



これからの学術情報システム構築検討委員会規程

平成24年 7月20日制定

平成26年 7月 8日改定

平成27年 月 日改定

(設置)

第1条 連携・協力推進会議の下に、これからの学術システム構築検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、協定書の第2条第1項に掲げる事項のうち、(3)「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進することを目的とする。さらに、同項の(4)「学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成」および(5)「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」について、(3)に関連するものを含むものとする。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 国公立大学図書館の職員
- 二 国立情報学研究所の職員
- 三 その他連携・協力推進会議の委員長が必要と認めた者

2 委員は、連携・協力推進会議の委員長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって選出する。

2 委員長の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。ただし、再任を妨げない。

(作業部会)

第6条 委員会は、必要に応じて作業部会を設置することができる。

2 作業部会に主査を置く。主査は、委員会の委員の中から、委員会の議を経て委員長が委嘱する。

3 作業部会の設置期間は、設置の都度これを定める。

4 作業部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 国公立大学図書館の職員

- 二 国立情報学研究所の職員
- 三 その他委員長が必要と認めた者
- 5 作業部会委員は、作業部会主査の推薦により、委員長が委嘱する。
- 6 作業部会の運営に関する細則は、別に定める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会において別に定める。

付 則

この規程は、平成24年7月20日から施行する。

付 則

この規程は、平成26年7月8日から施行する。

付 則

この規程は、平成27年 月 日から施行する。

## 新旧対照表

これからの学術情報システム構築検討委員会規程

改定後	改定前
(設置) 第1条 (略)	(設置) 第1条 (略)
(目的) 第2条 (略)	(目的) 第2条 (略)
(組織) 第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。 一 国公立大学図書館の職員 二 国立情報学研究所の職員 三 その他連携・協力推進会議の委員長が必要と認められた者 2 委員は、連携・協力推進会議の委員長が委嘱する。 (削除)	(組織) 第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。 一 国公立大学図書館の職員 二 国立情報学研究所の職員 三 その他連携・協力推進会議の委員長が必要と認められた者 2 委員は、連携・協力推進会議の委員長が委嘱する。 <u>3 第2条の目的を達成するために、必要に応じて委員会の下に協力員を置くことができる。協力員は第3条第1項に掲げる者とし、委員会が指名し、連携・協力推進会議の委員長が委嘱する。</u>
(任期) 第4条 委員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。ただし、再任を妨げない。	(任期) 第4条 委員および協力員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。ただし、再任を妨げない。
(委員長) 第5条 (略)	(委員長) 第5条 (略)
<u>(作業部会)</u> 第6条 委員会は、必要に応じて作業部会を設置することができる。 2 作業部会に主査を置く。主査は、委員会の委員の中から、委員会の議を経て委員長が委嘱する。 3 作業部会の設置期間は、設置の都度これを定め	(新設)

<p><u>る。</u></p> <p>4 <u>作業部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。</u></p> <p>一 <u>国公立大学図書館の職員</u></p> <p>二 <u>国立情報学研究所の職員</u></p> <p>三 <u>その他委員長が必要と認めた者</u></p> <p>5 <u>作業部会委員は、作業部会主査の推薦により、委員長が委嘱する。</u></p> <p>6 <u>作業部会の運営に関する細則は、別に定める。</u></p> <p>(庶務) 第7条 (略)</p> <p>(雑則) 第8条 (略)</p> <p>付 則 この規程は、平成24年7月20日から施行する。</p> <p>付 則 この規程は、平成26年7月8日から施行する。</p> <p>付 則 <u>この規程は、平成27年 月 日から施行する。</u></p>	<p>(庶務) 第6条 (略)</p> <p>(雑則) 第7条 (略)</p> <p>付 則 この規程は、平成24年7月20日から施行する。</p> <p>付 則 この規程は、平成26年7月8日から施行する。</p>
---	--

これからの学術情報システム構築検討委員会作業部会規程

平成 年 月 日制定

(総則)

第1条 これからの学術システム構築検討委員会（以下「委員会」という。）規程の第6条に基づき設置する作業部会について定める。

(設置する作業部会)

第2条 委員会に、次の作業部会を設置する。

- 一 電子リソースデータ共有作業部会

(作業部会の運営)

第3条 作業部会の活動方針及び活動計画は、作業部会の協議を経て作業部会主査が策定し、委員会の承認を得るものとする。

- 2 作業部会主査は、委員会において作業部会の活動状況を報告するものとする。
- 3 作業部会委員が同時に他の作業部会の委員となることを妨げないものとする。
- 4 作業部会の業務遂行において必要な場合は、作業部会委員以外の者の協力を得ることができるものとする。

(電子リソースデータ共有作業部会)

第4条 電子リソースデータ共有作業部会は、次の業務を遂行する。

- 一 国内刊行のオープンアクセス誌等のナレッジベースの維持管理に係る業務
- 二 その他電子リソースのデータの共有に係る業務

(庶務)

第5条 作業部会の庶務は、国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課において処理する。

付 則

この規程は、平成 年 月 日から施行する。

平成 27 年 1 月 21 日  
京 都 大 学 甲 斐

## ISO-ILL プロトコル対応の一方策：エージェント方式(案)

### 1. 主旨

- ① 確 認：経緯：報告書(H26.3)、推進会議(H26.7)、これから委員会(H27.10)。
- ② 新要素：ISO18626:2014。OCLC 対応時期早まる？
- ③ 提 案：エージェント方式。システム間リンクの暫定代替。運用・精算の課題も解決。
- ④ 報 告：次回の推進会議(2/18)での報告要点。7月最終報告。その間諸問題解決。

### 2. 確認

- ① 提言：『今後の GIF プロジェクトの在り方について(検討結果報告書)』(平 26.3)においてシステム間リンクの実現等を要望。
- ② 付託：「連携・協力推進会議」(第 8 回、平 26.7.8)において、「これから委員会で検討するのが適当・・・委員会において検討し、本会議に報告する」こととなった。
- ③ 検討：「これから委員会」(第 8 回、平 26.10.27)。もう少し時間をかけて。米国側の窓口 NCC は ILL の充実よりも日本資料の電子化の進捗を強く希望。

### 3. 新要素(未確定も含む)

- (1) 新 ISO-ILL プロトコル(ISO18626:2014 2014.7.9 刊行)
  - ① XML ベース、ステートレス、単純なメッセージ等
  - ② 日米間の GIF の対応だけでなく、NACSIS-ILL の新たな枠組みでの対応も必要。
- (2) OCLC-ILL の対応時期不明瞭。NACSIS-ILL・ローカルシステム対応不明瞭。
  - ① 平 29.5 以前になる場合もあり得る(平 26.3 報告書作成時)。
  - ② 平 28.7 に対応する予定との情報も？
  - ③ 各図書館システムでの新 ISO-ILL プロトコル対応クライアントの早急対応は困難。
- (3) 過去のシステム間リンクの稼働状況、利用タイトル
  - ① 過去 1 年間の日別・時間帯別・状態別処理件数。安定した件数。 → 別紙 1, 2, 3
  - ② 過去 10 年間の北米からの依頼タイトル → 別紙 4

### 4. 提案：

- (1) エージェント方式 → 別紙 5
- (2) システムと日本の料金相殺制度を発展させ、日米間の料金相殺制度の実現を図る。
- (3) ILL へのエフォートを減少させ、新たな枠組み構築にエフォートを投入する。

### 5. 報告：第 9 回「連携・協力推進会議」(2/18)での要点

- (1) エージェント方式をさらに検討し次回(7月)「連携・協力推進会議」最終提案を予告。
- (2) その間、実現に向けて関係機関との調整等を進める。
  - ① 各大学・協会等の意見聴取。
  - ② OCLC、紀伊國屋書店 OCLC センター。
  - ③ エージェントの主体、経費負担。
  - ④ エージェントの料金相殺制度への参加可否・NII 規則改正。
  - ⑤ 米国 NCC 及び ILL 関係者との事前連絡(3月?)。韓国との調整も。
  - ⑥ CAT2020 の検討と整合させ、新しい NACSIS-ILL の検討と GIF での先行実施。
- (3) 今秋(10月?)、NCC との協議・合意を経て、平成 28 年度からの実施を目指す。米国 OCLC-ILL の新プロトコルへの移行前に実施予定。

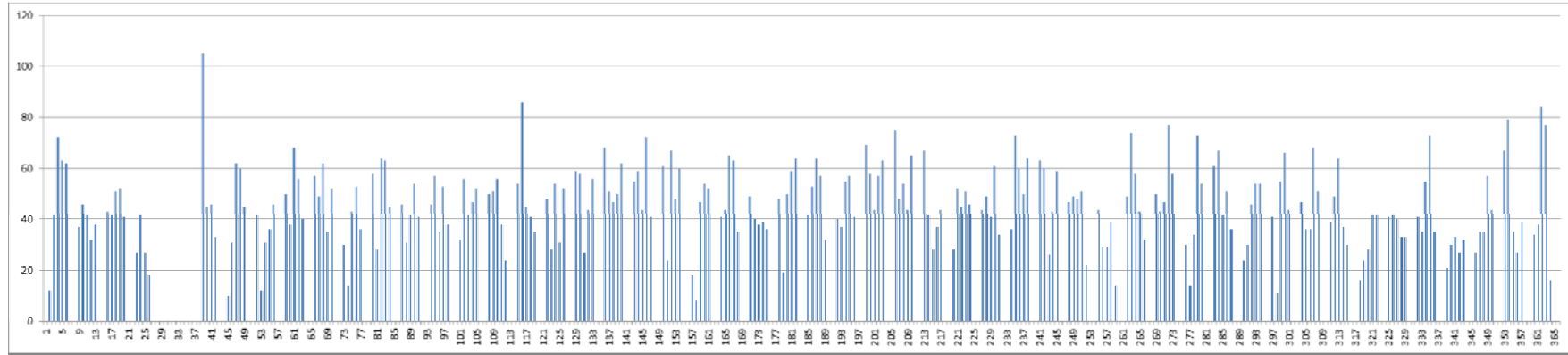
# システム間リンク(OCLC-NACISIS)におけるバッチ処理件数

(別紙1)  
2015年1月21日  
京都大学附属図書館

- 過去1年間(2013年12月～2014年11月)における日別件数の推移と時間帯別件数 -

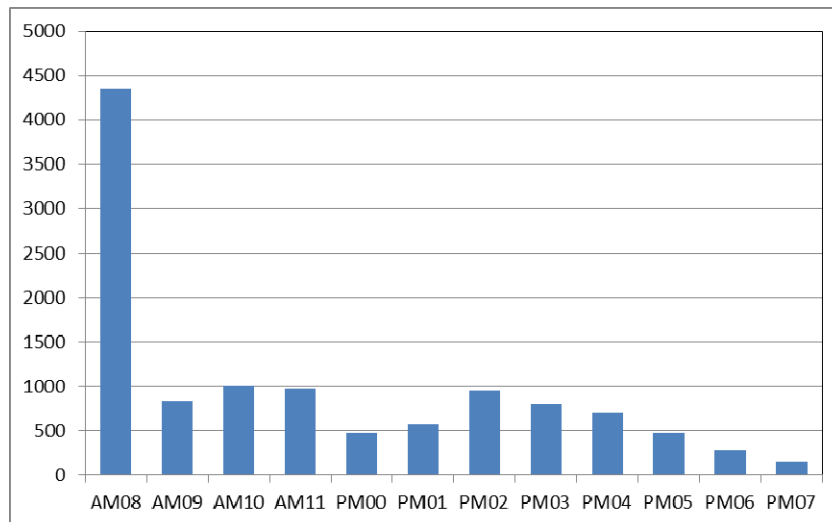
## 1. 過去1年間(2013年12月～2014年11月)における日別件数の推移

- ① 1日平均 40～50件で、年間を通じて安定した件数。経年的には減少傾向。
- ② 正月明けが最大。3月末の一時的な増加の要因は不明。



## 2. 過去1年間(2013年12月～2014年11月)における時間帯(日本時間)別件数

- ① 日米の時差は14～17時間。システム間リンクの稼働時間帯は、日本時間の8:00～20:00の12時間。
- ② 朝8時～朝9時は、直前12時間(北米の業務時間帯)に処理されたものが処理される。
- ③ 朝9時～夜8時は、日本側での処理(status変更)によるものが大半。この時間帯の北米は夜間なので、北米側の処理はほとんどない。



- ### 3. エージェント方式により代理人が操作する場合のポイント
- ① 毎日朝8時代に、北米からの新規・更新分をまとめて処理。
  - ② 午後は、日本からの新規・更新分の処理を中心にする。
  - ③ 午前中は、OCLC4日間ルールでCANCELとなるレコードを処理。
  - ④ 北米からの依頼で、所蔵館指定がない場合でも、エージェントにより最適の受付館選択を行い、NACISIS-ILLの複数館指定によってCANCEL率を抑えることが期待できる。

## 別紙2

システム間リンクのプログラムの処理件数：ステータス変更のタイプ別頻度（2013.12 - 2014.11）

・約7割は、新規の依頼や受付のデータ変換と、正常に処理が進行したもの。

・約3割は、双方のシステム間のこまかな状態遷移(ステータス管理)に対応したデータ変換。トラブル処理のものが多い。

JP-status1	JP-status2	US-status1	US-status2	freq	%	cum%	コメント
未処理	処理中	IDLE	PENDING	1,940	16.81	16.81	新規の依頼・受付
	未処理		IN-PROCESS	1,869	16.19	33.00	
処理中	発送	PENDING	SHIPPED	1,175	10.18	43.18	正常な状態進行
新着照会	CANCEL	IN-PROCESS	NOT-SUPPLIED	1,127	9.76	52.94	
確認	確認	SHIPPED	RECEIVED	875	7.58	60.52	正常な状態進行
処理中	新着照会	PENDING	NOT-SUPPLIED	681	5.90	66.42	
発送	発送	IN-PROCESS	SHIPPED	570	4.94	71.36	正常な状態進行
発送	到着処理中	SHIPPED	SHIPPED	333	2.88	74.24	
返送	返却処理中	RECEIVED	RETURNED	286	2.48	76.72	
借用中	借用中	SHIPPED	RECEIVED	279	2.42	79.14	
発送	借用中	SHIPPED	SHIPPED	275	2.38	81.52	
返却確認	返却確認	SHIPPED	CHECKED-IN	274	2.37	83.89	
借用中	返送	SHIPPED	SHIPPED	272	2.36	86.25	
返却処理中	返却確認	RETURNED	RETURNED	260	2.25	88.50	
処理中	新着照会	PENDING	CONDITIONAL	212	1.84	90.34	
CANCEL	CANCEL	CONDITIONAL	NOT-SUPPLIED	149	1.29	91.63	
新着照会	照会	IN-PROCESS	CONDITIONAL	100	0.87	92.50	
借用中	更新請求	SHIPPED	RENEW/PENDING	98	0.85	93.35	
返却クレーム未処理	借用中	RENEW/PENDING	SHIPPED	97	0.84	94.19	
回答待	処理中	IDLE	PENDING	90	0.78	94.97	
回答待	処理中	CONDITIONAL	PENDING	68	0.59	95.56	
照会	回答待	CONDITIONAL	IN-PROCESS	59	0.51	96.07	
CANCEL	CANCEL	CANCEL-PENDING	CANCELLED	56	0.49	96.55	
未処理	CANCEL	IN-PROCESS	CANCEL-PENDING	56	0.49	97.04	
クレーム回答待	発送	IN-PROCESS	SHIPPED	51	0.44	97.48	
CANCEL	CANCEL	NOT-SUPPLIED	NOT-SUPPLIED	41	0.36	97.83	
照会	CANCEL	CONDITIONAL	NOT-SUPPLIED	40	0.35	98.18	
発送	発送	SHIPPED	SHIPPED	38	0.33	98.51	
返却処理中	返却処理中	RETURNED	RETURNED	25	0.22	98.73	
新着照会	CANCEL	IN-PROCESS	CANCELLED	23	0.20	98.93	
更新請求	返却処理中	RECEIVED	RENEW/PENDING	20	0.17	99.10	
照会	照会	CONDITIONAL	CONDITIONAL	20	0.17	99.27	
処理中	処理中	IN-PROCESS	IN-PROCESS	19	0.16	99.44	
返却処理中	返却クレーム未処理	RENEW/PENDING	RECEIVED	19	0.16	99.60	
新着照会	新着照会	CONDITIONAL	CONDITIONAL	18	0.16	99.76	
確認	確認	RECEIVED	RECEIVED	11	0.10	99.85	
処理中	処理中	PENDING	PENDING	9	0.08	99.93	
返却処理中	返却処理中	RENEW/PENDING	RENEW/PENDING	3	0.03	99.96	
回答待	回答待	IN-PROCESS	IN-PROCESS	2	0.02	99.97	
借用中	借用中	RECEIVED	RECEIVED	1	0.01	99.98	
更新請求	返送	RENEW/PENDING	SHIPPED	1	0.01	99.99	
返却確認	返却確認	CHECKED-IN	CHECKED-IN	1	0.01	100.00	
				11,543			



## システムリンクでのデータ変換の例

## 1. システム間リンクによる変換履歴の例：2013年12月17日(火)15時40分(JST)

北米からの依頼レコードの NACSIS-ILL の status が「新着照会」から「CANCEL」  
となり、OCLC の status を「IN-PROCESS」から「NOT-SUPPLIED」した。

---

```
G:¥gifill¥data-conv>Dgrep date:20131217.15.40.05 data3.txt | more
date:20131217 15:40:05
type:fromUS-put
oclc1:IN-PROCESS
oclc2:NOT-SUPPLIED
nacsis1:新着照会
nacsis2:CANCEL
apdu:ILL-Answer(UNFILLED)
yyyymmdd:20131217
year:2013
month:12
day:17
hour:15
```

---

## 2. 京都大学での当該レコードの詳細：2013年12月17日(火)15時40分(JST)

上記の処理は、依頼レコードの NACSIS-ILL の status が「新着照会」から「CANCEL」  
となり、OCLC の status を「IN-PROCESS」から「NOT-SUPPLIED」した。

---

```
odate:20131217
srvce:複写
stat:CANCEL
omlid:OCLC
isoid:NDD
amlid:FA002611
amlnm:京大
bibnt:Shincho?.. -- 880-02 To?kyo?-shi : Shincho?sha, Meiji 37 [1904]-
ctype:
sum:
ofanm:
hmlnm:京大
loc:
clno:
vol:
no:19 5
page:unknown, please copy whole art
year:1913
artcl:: Bunten kenbunki
odate:20131217000000
```

adate:20131217000000  
sdate:  
rdate:  
ddate:  
bdate:  
kdate:  
ncid:  
stdno:  
hmlid:FA002611  
isohid:  
rgtno:  
rnmid:FA002611  
isorid:  
bookid:  
bvrf:<TN:860319><ODYSSEY:206.107.44.93/NDD> OCLC  
hvrf:  
phys:  
money:  
svia:Library Mail  
dds:  
payno:  
cmmnt:<ISOTRG>ISOGID:112056763ISOID:YJ@</ISOTRG><BIBG>-  
BIBNT:Shincho?.. -- 880-02 To?kyo?-shi : Shincho?sha, Meiji 37 [1904]--  
</BIBG><HMLG>HMLID:FA002611HMLNM:京大 AMLIDA:FA002611-  
</HMLG><SENDG>SENDDATE:20131217104702-  
SENDCMND:APDU=ILL-RequestSENDMLID:OCLC -  
SENDCMNT:PAYMENT=IFM / NEED-BEFORE=20140112 / MAX-COST=USD  
50.00 / EXPIRY-DATE=20131219 / NOTE=WE NO LONGER USE ARIEL.  
Please send copies via ILLiad, Odyssey, Email, Fax or Article Exchange.Thank  
you! (maxCost: \$50.00) FAX/ARIEL:919-660-5964  
EMAIL:documentdelivery@duke.edu</SENDG><SENDG>-  
SENDDATE:20131217113524SENDCMND:RECEIVESENDMLID:FA002611-  
</SENDG><SENDG>SENDDATE:20131217152313SENDCMND:PARDON-  
SENDMLID:FA002611SENDCMNT:CODE=9 指定した全ての受付館で謝絶され  
ました</SENDG><SENDG>SENDDATE:20131217154005-  
SENDCMND:APDU=ILL-Answer(UNFILLED)SENDMLID:OCLC -  
</SENDG><CHG>UPRCE:40</CHG>  
omlid:  
amlid:

システム間リンクの  
変換履歴などが記録

-----

## 参考資料：北米から日本に依頼する資料の上位タイトル (2004 - 2013)

－ すべての資料が必ずしも正規化されている訳ではない。CANCELを含むため必ずしも実依頼件数とは言えない －

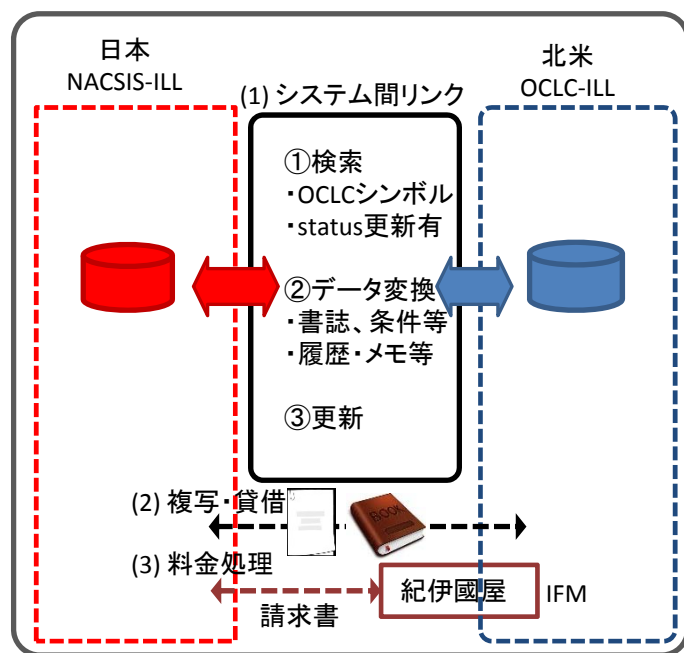
- ・2004～2013年度の16,436件。15,927件の終了状態に409件の途中状態を含む。
- ・終了状態の内訳：確認:3,376・返却確認:1,853・CANCEL:10,698。
- ・学術雑誌・学会誌・紀要・学術図書以外に、通常の商業出版物も多い。言語学関係が多い。

count	BIBNT
95	IDE gendai no ko?to? kyo?iku : Minshu Kyo?iku Kyo?kai shi.. -- 880-04 To?kyo?-to : Minshu Kyo?iku Kyo?kai.
68	Gogaku kyoiku foramu
48	Journal of Japanese Society of Clinical Sports Medicine
38	Bungei shunj?u.. -- 880-02 T?oky?o : Bungei Shunj?usha.
37	Japanese journal of communication disorders
36	Second Language
35	Konchu to shizen:The nature & insects.. -- Tokyo : Nyu Saiensusha
35	Nihon Shinkan Shigakkai kaiho?. -- Nihon Shinkan Shigakkai/To?kyo?-to Hachio?ji-shi ¥ To?kyo?-to Hachio?ji-shi
34	Proceedings / ICSLP. / International Conference on Spoken Language Processing.. -- Kobe, Japan : Acoustical Society of Japan, c1990-
34	zoku gogen kenkyu
33	Eiga hyoron.. -- Eiga hyoronsya ¥ Kawakita Library eiga zassi database
33	[Hokenfu zasshi] The Japanese journal for public health nurse.. -- Tokyo.
33	[Jid shinri]. -- [Kaneko shob] ¥ Tky
32	Gifuken rekishi shiryokan ho
32	zoku go gen ken kyu
29	Nikkei Burajirujin no bairingarizumu /. -- Tokyo : Bonjinsha, 2000.
27	Kaiko?.. -- 880-02 To?kyo? : Kaiko?sha.
26	Bulletin // Asiatic Society of Japan.. -- Tokyo : The Society.
26	Enueichikei nihongo hatsuon akusento jiten shi?di?romuban.. -- 880-02 To?kyo? : Nihonho?so?shuppankyo?kai, 2002.
26	Hirabaru Yayoi kofun : O?hirumenomuchi no haka // 880-01 Harada, Dairoku, 1917-. -- 880-03 Fukuoka-shi : Ashi Shobo?, Heisei 3 [1991]
24	Kazoku shakaigaku kenkyu? /. -- 880-02 To?kyo?-to : Nihon Kazoku Shakai Gakkai
23	Childhood education research journal / Kubo
22	Taikology (Taikorojii)
21	Nanzan daigaku kokusai kyoiku senta kiyo
21	Revue internationale de psychologie sociale.. -- Toulouse : Privat, 1988-
21	Shu?sanki igaku. Perinatal medicine.. -- To?kyo?, Igakusha.
19	Kobe Jogakuin Daigaku ronshu.. -- Nishinomiya, Kobe Jogakuin Daigaku Kenkyujo.
19	Seishinkai.. -- 880-02 To?kyo? : Seishinkai Hakko?jo.
18	2005-nendo Nihongo Kyo?iku Gakkai Shunki Taikai : yoko?shu? // 880-01 Nihongo Kyo?iku Gakkai Taikai (2005 : Yokohama-shi, Japan). -- 880-04 To?kyo? : Nihongo Kyo?iku Gakkai, 2005.
18	Toshi jo?ho?gaku kenkyu?:Urban science studies.. -- 880-02 Gifu-ken Kai-shi : Meijo? Daigaku Toshi Jo?ho? Gakubu.
17	Bulletin of Nagoya Junior College of Creative Art
17	Dite?ru no shiko? : tekutonikusu minimarizumu so?shoku shugi / ; 880-03 10+1 ; 16.. -- 880-02 To?kyo? : Inakkusushuppan.
17	Individual differences in foreign language learning : effects of aptitude, intelligence, and motivation : conference proceedings, March 26th and 27th, 1999 // Conference on Individual Differences in Foreign Language Learning (1999 : Aoyama Gakuin University, Japan). -- Japan : Aoyama Gakuin University, 2000.
17	Oshio kenkyu
17	Seimei no deai : Nihongo gakkyu no jugyo kiroku // Yoshimoto, Yukio, 1950-. -- Shohan.. -- Tokyo : Chikuma Shobo, 1989.
16	Bo?eki to kanzei.. -- 880-02 To?kyo? : Nihon Kanzei Kyo?kai, 1955-
16	Gakurin.. -- 880-02 Kyo?to : Chu?goku Geibun Kenkyu?kai, Sho?wa 58- [1983-
16	Nijissai no toki ni shitte okitakatta koto : sutanfo?do daigaku shu?chu? ko?gi // 880-01 Seelig, Tina.. -- 880-03 To?kyo? : Hankyu?komyunike?shonzu, 2010.
16	Tenshin shoden katori Shinto-ryu budo kyohan / Sugino, Yoshio, and Ito, Kikue. -- Tokyo: Shinda shobo, 1944; rpn 1977
16	To?dai tendai bukkyo? fukko? undo? kenkyu? josetsu : Keikei tannen to sono shikan fuko?den guketsu /. -- 880-02 To?kyo? : Daizo? Shuppan, 2008.
16	Zoku go gen ken kyu
15	Chusei bungaku ronso
15	Current issues in English linguistics / ; Special publications of the English Linguistic Society of Japan ; v. 2. -- Tokyo : Kaitakusha, 2003.
15	Gekkan jichi ken
15	International Journal of Pragmatics
15	Musashi abumi. : [Kisho Fukuseikai soshu]. ser. 9 ; [no. 17]. -- Tokyo : Yoneyamado, Showa 9 [1934]
15	Nihon Onsei Gakkai Zenkokutaikai Yokosyu 2002 'Proceedings of the 16th Annual Convention of the Phonetic Society of
15	Nihongo kyo?iku kenkyu?.. -- 880-02 To?kyo? : Nihongo Kyo?shi Renmei.
15	Nihongo no goitokusei (NTT database series) Vol. 7 Hindo 1-2 / Amano, Nariaki and Kondo, Kimihisa. -- Tokyo: Sanseido,
15	Nikuchu no tetsugaku : nikutai o guyu shita maindo ga seiyo no shiko ni chosen suru // Lakoff, George; Johnson, Mark.; Kemmi, Kazuo. -- Tokyo : Tetsugaku shobo, 2004
15	Studies on environmental pollution disputes in east Asia : cases from mainland China and Taiwan // Wang, Canfa. ; Joint research program series ; no. 128. -- Chiba : Institute of Developing Economies, c2001.
14	36th Symposium on Solid State Ionics in Japan
14	Itsutsu no Nihon minyo : konsei gassho notameno // 880-01 Miyoshi, Akira,930748 1933-930748. -- 880-03 Tokyo : Zenon gakufu shuppansha, 1974.6.
14	Japan Journal of Multilingualism and Multiculturalism
14	Japan's white paper on science and technology 1986 : toward a better environment of man /. -- Tokyo : Tokyo Office.

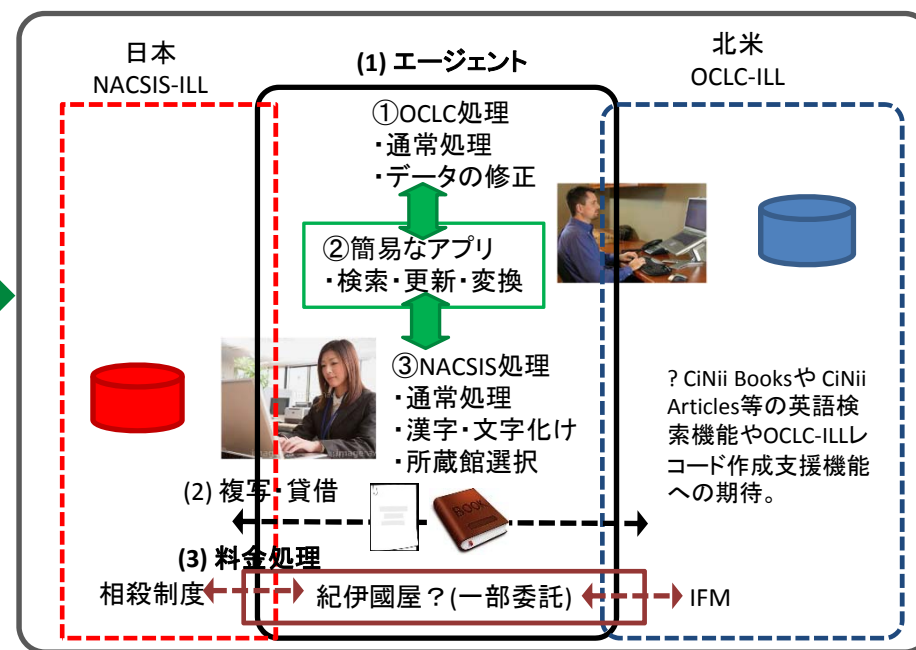
14	Nicyu Geijyutsu Kenkyu
14	Nikkei a?kitekuchua:Nikkei architecture.. -- To?kyo? : Nikkei BP Sha,
14	Ro?nen shakai kagaku:Japanese journal of gerontology /. -- [Tokyo] : San Eijingu, 1979-
14	Sanson no mirai ni idomu : Kamikatsumachi ga kangaeru chiiki no ikashikata : Yamazato o do?yatte genki ni shiyo? /. -- 880-02 To?kyo? : Jichitai Kenkyu?sha, 2007.
14	Space technology, Japan /. -- Tokyo
14	Tokoha kokubun
13	Burajiru jiho
13	Gekkan minpo?.. -- 880-03 To?kyo? : Ko?ken Shuppan,
13	Journal of advanced science /. -- Hiratsuka, Japan : The Society,
13	Kikan fudo?san kenkyu?.. -- 880-02 To?kyo?-to : Nihon Fudo?san Kenkyu?jo
13	Nihon Kangokyokai Ronbunshu: Kango kyoiiku / Kosugi, Kyoko
13	Shakai gengo kagaku:The Japanese journal of language in society. / Satoo, Akira
13	Tokushima Daigaku kokugo kokubungaku.. -- Tokushima-shi : Tokushima Daigaku Kokugo Kokubun Gakkai, Showa 63
13	shouwa joshi daigaku daigakuin nihon bungaku kiyou
12	Ars linguistica. / Kano, A.
12	Bukkyo Daigaku kenkyu kiyu.. -- Kyoto-shi : Bukkyo Daigaku Gakkai, 1956 1992
12	Community development in Japan
12	Fukugen irasuto chusei no shiro to kassen / / Fujii, Hisao, 1947-. -- Tokyo : Asahi Shinbunsha, 1995.
12	Gakugei kokugo kokubungaku
12	International Mathematical Journal. -- Chiba Univ., Fac. Educ. Dep. Math.
12	Kinsei ikujisho shu sei / Koizumi, Yoshinaga. -- Kuresu Shuppan 2006
12	Kiso to rinsho. The clinical report.. -- Tokyo, Kindai Igakusha. 1967 1997
12	Ko?seido kansoku eisei o riyo? shita chiky? ondanka to? ni tomonau aja no shokuryo? seisan hendo? no yosoku shuho? no ko?doka / ; 880-97 Kenkyu? seika ; 386.. -- 880-02 To?kyo? : No?rinsuisansho?no?rinsuisangijutsukaigijimukyoku, 2002.
12	Oil and Natural Gas Resources in Japan / Ishiwada, Y. Aida, H., Atake, Araki, Iijima, Ikeda, Okuda, Kikuchi, Kojima, Saito, Sato, Tanaka, Ton. -- Tokyo: Natural Gas Exploration Association 1992
12	Papers of Technical Meeting on Electrical Discharges, IEE Japan
12	Saishin kyoiku detabukku : kyoiku no zentaizo ga miete kuru:A databook of educational statistics / Shimizu Kazuhiko ... [et al.] hencho / Shimizu, Kazuhiko, 1952-. -- Dai 10-han. -- Jiji Tsushinsha, ¥ Tokyo : ¥ 2004
12	Sekai bunka
12	Senshu kokubun.. -- Kawasaki : Senshu Daigaku Kokugo Kokubungakkai.
12	Takahashi oden yasha monogatari. 4 (3) /. -- 880-02 Nihonbashiku (to?kyo?fu) : Kinsho?do?, 1879.
11	Di?esuemu shi ti?a?ru seishin shikkan no shindan to?kei manyuaru.. -- 880-03 To?kyo? : Igakushoin, 2004.
11	Financial accounting / / Harrison, Walter T.. -- Boston : Pearson, c2013.
11	Jokyo ni umekomareta gakushu / Lave, Jean ; Wenger, Etienne; Saeki, Yutaka (trans.). -- Sangyo Tosho Tokyo 1993
11	Kokoro no fu?kei o meguru tabi / / 880-01 Higashiyama, Kaiti. ; 880-04 Higashiyama kaiti a?to arubamu ; 3.. -- 880-03 To?kyo? : Ko?dansha, 2008.
11	Kokugo kyo?iku kenkyu? ; 880-06 Asakura kokugo kyo?iku ko?za ; 6.. -- 880-02 To?kyo? : Asakura Shoten, 2006.
11	Kokugogaku kenkyu to shiryu.. -- Tokyo : Kokugogaku Kenkyu to Shiryu no Kai,
11	Nihon emakimono zenshu : bekkai, zaigaihen / PLEASE LEND VOLUMES 1-2. -- Tokyo : Kadokawa Shoten, Showa 55
11	Osaki gakuho.. -- Tokyo-to : Rissu Daigaku Bukkyo Gakkai, 19uu uuuu
11	To?yo? ongaku kenkyu?. / We belong to Japan GIF project.. -- 880-02 To?kyo?-shi : To?yo? Ongaku Gakkai, Sho?wa 11
11	Wisuku san asesumento jireishu? : riron to jissai.. -- 880-02 To?kyo? : Nihonbunkakagakusha, 2005.
10	Abidaruma bukkyo to indo shiso : Kato Junsho Hakushi kanreki kinen ronshu /. -- Tokyo : Shunjusha, 2000.
10	Amerika no nashonarizumu to shiminzo? : guro?baru jidai no shiten kara. ; 880-97 Mineruva jinbun shakai kagaku so?sho ; 073.. -- 880-02 Kyo?to : Mineruva Shobo?, 2003.
10	Do?jin.. -- 880-03 To?kyo? : Do?jinzasshisha, 1906-1939.
10	Eco Industry. -- Shi Emu Shi Shuppan
10	Edo jo?ka hensen ezushu? : gofunai enkaku zusho. Bekkan 1 /. -- 880-02 To?kyo? : Hara Shobo?, 1988.
10	Green Power (Guriin Pawaa) / Unakami,Tomoaki
10	Hakone no sekibutsu : gaido bukku / / Sawaji, Hiroshi.. -- Shohan.. -- Yokohama-shi : Kanagawa Shinbunsha, 1989
10	Ichi kyu hachi yon. / Murakami, Haruki H. -- Shinchosha/Tokyo ¥ Tokyo ¥ 2009
10	Japan journal of multilingualism and multiculturalism.. -- [Kyoto] : Japan Association for Language Teaching,
10	Kokka to keizai hatten : nozomashii kokka no sugata o motomete /. -- 880-02 To?kyo? : To?yo? Keizai Shinpo?sha, 2010.
10	Mimi kara oboeru nihongo nryoku shiken goi torningu enu ichi : eigo chgokugoku kankokugoyakutsuki / And, Eriko. -- Aruku/Tky ¥ Tky ¥ 2012
10	Nihongo no toritate / Kinsui, Satoshi
10	Seibutsu / Segawa, S.
10	Seizan gakuho
10	Shakai mondai no kochiku : raberingu riron o koete. / Kitsuse, John I.; Spector, M. B.; Murakami, Naoyuki.. -- Tokyo : Maruju Sha, 1990
10	Shinkeigaku zasshi.. -- Tokyo, Nippon Shinkei Gakkai. 1902 1935
10	Shinshu kenkyu. / 880-03 Shinshu Rengo Gakkai.. -- Shinshu Rengo Gakkai ¥ Kyoto
10	TOYAMA DAIGAKU JINBUN GAKUBU KIYO
10	Taihoku Teikoku Daigaku Bunsei Gakubu Tetsugakka kenkyu nenpo.. -- [Taihoku-shi] : Taihoku Teikoku Daigaku Bunsei Gakubu, 1934 uuuu
10	To?yo? ongaku kenkyu?.. -- 880-02 To?kyo?-shi : To?yo? Ongaku Gakkai, Sho?wa 11 [1936]-
10	Yakuri to chiryo. Basic pharmacology & therapeutics.. -- Tokyo, Raifu Saiensu Shuppan.
10	Yokohama Shiritsu Daigaku kiyu?. Jimbun gakuho.. -- 880-03 Yokohama : Yokohama Shiritsu Daigaku,
10	Yoru ga toki no ayumi o kurakusuru toki /

## GIF : ISO-ILL新プロトコル対応までの暫定的な対応案: エージェント方式

- ① ISO-ILL新プロトコルへの安定対応に至るまでの間、サービスの継続性を図るための方策として、エージェント方式を提案します。
- ② OCLC-ILL, NACSIS-ILL双方のシステムに精通した人・組織(エージェント)を介して、1件ずつの依頼を双方のシステムで処理をするものです。
- ③ 人を介するため、双方の運用面の差異から発生する諸トラブルの減少が期待できます。日韓ILLにおいて韓国側での実施例(2004~2006年)があります。
- ④ 年間数千件、また年々減少している処理件数を考慮すると、人でも十分処理可能です。件数の増減にもスタッフの数量で柔軟に対応できます。
- ⑤ エージェントをNACSIS-ILLの料金相殺制度の利用機関として認めることができれば、日米間の料金相殺制度も実現できます。
- ⑥ ISO-ILL新プロトコルへの対応時間が確保できるため、CAT2020問題の検討と併せて、GIFに限らずNACSIS-ILL全体の新たな枠組みへ検討ができます。



- (1) システム間リンク
  - ① OCLC-ILL, NACSIS-ILLの双方のシステムを検索。  
OCLCシンボルや、レコードのstatus変更有無で検索。
  - ② 双方のレコード間でのデータ変換。
  - ③ 変換したレコードを双方のシステムで更新。
- (2) 複写物や現物貸借物の送付
- (3) 料金精算: 日本側はまだ請求書。相殺制度の要望強。



- (1) エージェント
  - ① 新プロトコル対応のOCLC-ILLを操作して、NACSIS-CATとの間の依頼・受付を代表して処理。北米の運用慣習に応じた処理やデータの適宜修正。
  - ② 新プロトコルの基本的な機能に対応した簡易なアプリ。  
データ検索・更新・変換等。スタッフの作業効率が高まる支援機能等。
  - ③ NACSIS-ILLを操作して、OCLC-ILLとの間の依頼・受付を代表して処理。  
日本の習慣に応じた処理、漢字処理等。書誌確認・所蔵館選択の代行等。
- (2) 現行どおりの複写物・現物貸借物の送付。
- (3) エージェントが日本の相殺制度に参加できれば、エージェントを介して、日米間の料金相殺制度が実現できる。

平成 27 年 1 月 21 日

これからの学術情報システム構築検討委員会

## ISO プロトコル変更に対する NACSIS-ILL の対応について（検討結果）（案）

## 1 本委員会における検討に至る経緯

平成 25 年度、国公立大学図書館協力委員会 GIF プロジェクトチーム及び国立大学図書館協会学術情報委員会 GIF プロジェクトチーム下の GIF プロジェクト再検討ワーキンググループは、平成 29 年の ISO ILL プロトコルの規格改訂も踏まえて GIF プロジェクトの今後の在り方について検討を行い、平成 26 年 3 月「今後の GIF プロジェクトの在り方について（検討結果報告書）」をまとめた。

国公立大学図書館協力委員会は上記報告書に基づき、第 8 回連携・協力推進会議（平成 26 年 7 月 8 日開催）において、「ISO プロトコル変更に対する NACSIS-ILL の対応について（依頼）」を提出し、ISO ILL プロトコルの継続運用及び後継プロトコルの検討の場の設定を要望した。

同会議で審議の結果、本委員会に対応の検討が付託された。

## 2 本委員会における検討結果

本件について委員会で検討を行ったところ次のような意見があり、後継の ISO ILL プロトコルについて喫緊の対応の必要性はみられず、今後の動向も踏まえて対応の検討を継続するという結論に達した。

- ・ 現在の日米 ILL，日韓 ILL の利用件数を勘案するとシステム改修や運用コストに見合った事業とは言い難い。
- ・ 現行プロトコルでの運用面での困難さを考慮すると、後継プロトコルの他国での評価を見極めた方がよい。
- ・ 一方で、これまで営まれてきた日米 ILL，日韓 ILL の意義を考えると、体系的な対応の困難さを理由にサービスを中止することは避けるべきである。
- ・ ILL そのものは運用の工夫によって継続することは可能と考えられる。
- ・ GIF プロジェクトの目的である日本語文献の提供は、電子資料の出現とそのオープンアクセス化によって手段や環境が当初から大きく変化している。そのような状況も踏まえて、フレームワークそのものの再検討が必要と思われる。

平成 26 年 12 月  
国立情報学研究所

## 2020 年目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) 再考のための提議

### 1 現況

1985 年に目録所在情報サービスの運用を開始して移行、大学図書館等のサービス参加機関と連携・協力する形でサービスの充実・拡大を図り、現在は、約 1,200 の参加機関、約 1,000 万件の書誌レコード、約 1 億件の所蔵レコード、約 80 万件の ILL 処理数、約 6 億円の予算を抱える大規模サービスとなっている。

### 2 問題意識

現在、非常に安定的に運用されているかに見える目録所在情報サービスであるが、いくつかの懸念も存在する。

・ **学術情報の変化**：かつて大学図書館が扱っていた学術情報は、基本的に紙媒体で出版された図書であり、雑誌であった。然るに今日では、電子的な媒体が流通し、誰もが己の持つ情報を公開可能になり、流通過程も複雑化している。昭和 55 (1980) 年の学術審議会答申『今後における学術情報システムの在り方』で打ち出された「資源共有」という理念に基づいて目録所在情報サービスは構築されたが、今日の社会的情勢や要請との乖離が指摘されており、そもそもの理念のところから再考しなければならない。

・ **安定運用であるがゆえの施策順位の低下**：このような変化の中で、大学図書館において、コアとなる業務が 30 年前と今日とでは変わってきている。多様化する図書館業務の中で、業務フローが確立された目録業務は改善の必要な業務ではなく、システムもほぼ停止することなく稼動していることが当然とみなされていても何ら不自然ではない。加えて、大学図書館を所管している文部科学省においても、安定運用している目録所在情報サービスについては、全く顧みられることはなく、意識の外にあるとあってよい。その結果、大学図書館において事業の拡大や次世代にむけた改善の対象として検討の俎上に上ることが全くなり、国家的な学術情報政策において取り上げられることもなくなった。

・ **レガシーな事業モデル・運用モデルのコスト**：サービス開始以来、参加館に対してサービスは無償で提供されている一方で、国立情報学研究所が国に対して、毎年、概算予算要求を行うことによってコストを負担してきた。しかし、国家財政の厳しい状況の中で、特別経費という枠組みでは、社会インフラとしての「目録所在情報サービス」の予算は年々削減される一方である。これまでは、なんとか支弁が可能であったが、これ以上の予算削減があると、ある年から事業の維持に必要な経費が一挙に確保不能になるという事態もありえるという危機感を国立情報学研究所は持っている。

一方で、30 年前に構築された運用モデルには、必要以上のコストがかかっているのではないかという疑念もある。当時のコンピュータ資源の限界性のままに、人手での処理や複雑なルールで運用を行うことのコスト効率は検討を要する課題である。国立情報学研究所

としては、高コスト状態にある現行の運用モデルやシステムを見直し、人的資源やシステムリソースの効率化を図り、持続可能なサービスを実現したいと考えている。

・**大学図書館の参加意識の低下**：サービスの存続に関して国立情報学研究所が抱えている危機感が図書館コミュニティに共有されていないことも懸念される場所である。参加館の数が増大し、母体・規模も多様になるにつれ、「当事者意識」と言えるものが参加館の間でも希薄になっている。平成 23 (2011) 年に図書館職員に向けて行ったアンケート調査<sup>1</sup>でも、「共同分担入力方式」という言葉で示される、今の運用モデルに主体的に関与していない機関があることが指摘されている。

ただし、事業モデルのあり方が問われる中で、「分担入力」を堅持することだけが解決の方策ではなくなっていることにも留意しなければならない。これからの目録所在情報サービスに対して、大学図書館がどのような関わり方で主体性を発揮していくことが、全体としてのサービス存続につながるのかを検討する必要がある。

・**相互理解の不足**：一方で、大学・大学図書館の将来像について、今後、大学が注力していきたい、あるいは注力しなければならないことは何なのか、大学が直面している困難は何なのか、その中で国立情報学研究所にどのような期待を抱いているのか、それらの実現にどのような方策が考えられるのか等、国立情報学研究所の理解が至らない点も存在する。学術情報センターから国立情報学研究所に組織が変わったことにより、研究所としてのミッションと大学共同利用機関としてのミッションを両立させていくことが、国立情報学研究所の課題点でもあり、強みでもある。大学への理解を増していくことにより、国立情報学研究所の強みである、技術力や研究力を事業に活かせるようにしたい。

### 3 提議

以上の問題意識を踏まえて、国立情報学研究所は、2020 年を目途とした目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) の現在の事業モデルの再考を、大学図書館との連携・協力の枠組みのもと、両者が共に検討することを提議する。今後に向けて、これからの学術情報システム構築検討委員会を中心に検討しなければならないことを整理すると、以下のようになる。

・**理念の再構築**：現在の、また予測し得る将来の状況を勘案した新たな理念が必要である。一時的な混乱を越えてでも、今こそが理念を再構築し、次の時代の理念を掲げる時である。そしてその理念を関係各所に説明し続けることにより、学術情報を支える仕組みを可視化していくことも必要であろう。

・**事業モデルの見直し、システムの見直し**：国家財政への依存度の高さや事業モデル・システムの高コスト化といった様々なリスクが存在しているため、事業モデル・システムそのもの見直しが必要であると考え。上述の新たな理念に即応したモデル、学術情報の枠組みの変化への対応、参加館の主体的な関与を引き出す仕組み、どのようなデータを

---

<sup>1</sup> NACSIS-CAT/ILL 参加館状況調査アンケート結果報告書 (平成 23 年 3 月調査)  
[http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/project/pdf/enq2011\\_1\\_0315.pdf](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/project/pdf/enq2011_1_0315.pdf)



共用していくのか、コスト負担の在り方、といったことが検討すべきポイントとして挙げられる。

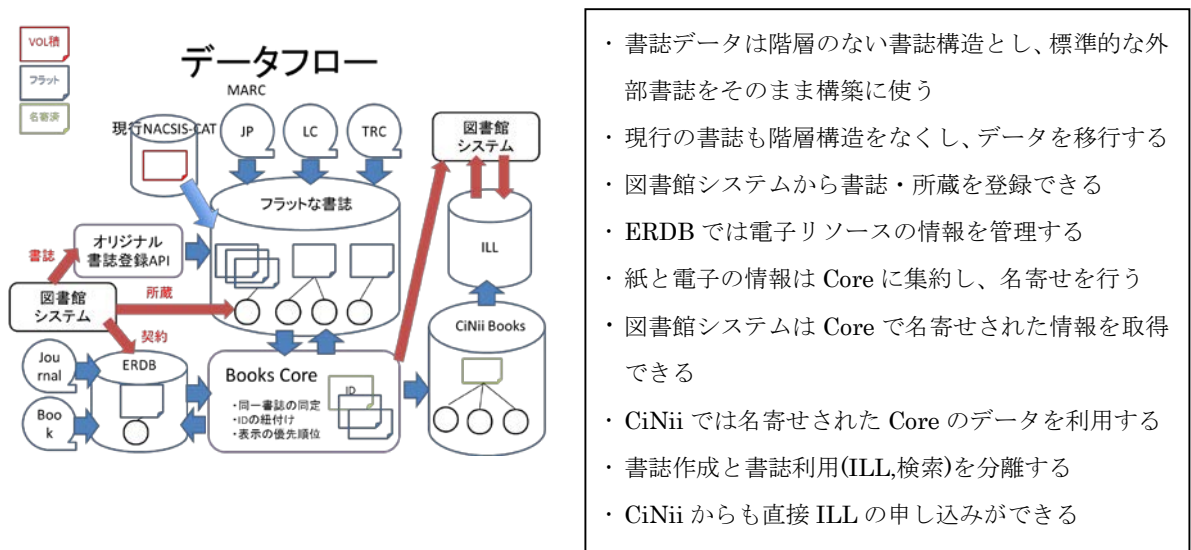
・**大学・大学図書館との連携の一層の緊密化**：大学図書館と国立情報学研究所は、共創・共考の関係である。現状の大学・大学図書館をとりまく状況、ことに今後どのような方向に向かっているのか、どこに投資をしようとしているのか、その中で国立情報学研究所とどのような連携を期待しているのか、それらの実現にどのような方策が考えられるのか、大学図書館の見解を整理する必要があると考えている。各々が持つ危機感を共有しつつ、大学図書館と国立情報学研究所との具体的な連携方策に結実させためには、将来を見通した希望を語る中堅・若手職員の主体的な参加も期待されている。

#### 4 国立情報学研究所の検討状況

国立情報学研究所では、ここ数年にわたり、次期のシステムに向けた検討を行ってきた。以下は、現時点で、NII が検討している目録所在情報サービスの要件である。

- ・ **理念の再考**：従来の「資源共有」という理念を前提としつつ、資源共有の方法を拡大するため、冊子体に加えて電子リソースの取扱いを強化する。
- ・ **目録作業の簡略化による全体コストの低減**：独特の書誌構造・厳格な運用ルールを変更し、標準的な目録の使用も認める、従来大きな負担となっていた書誌調整の在り方を見直す等、共同分担入力という運用モデルを見直すことで作業の効率化を目指す。
- ・ **図書館の学術情報提供の支援**：目録業務と ILL サービスを切り離し、電子リソースへのナビゲーションも加えることで、利用者あらゆる手段で学術情報を提供しようとする図書館の活動を支援する。
- ・ **システムの再構築**：外的要因の変化に柔軟に対応するため、システムを軽量化し、コストを削減する。このことにより、多重化が容易になり、トラブル時・災害時の事業継続も可能になる。

現在想定しているデータフローは下図の通りである。

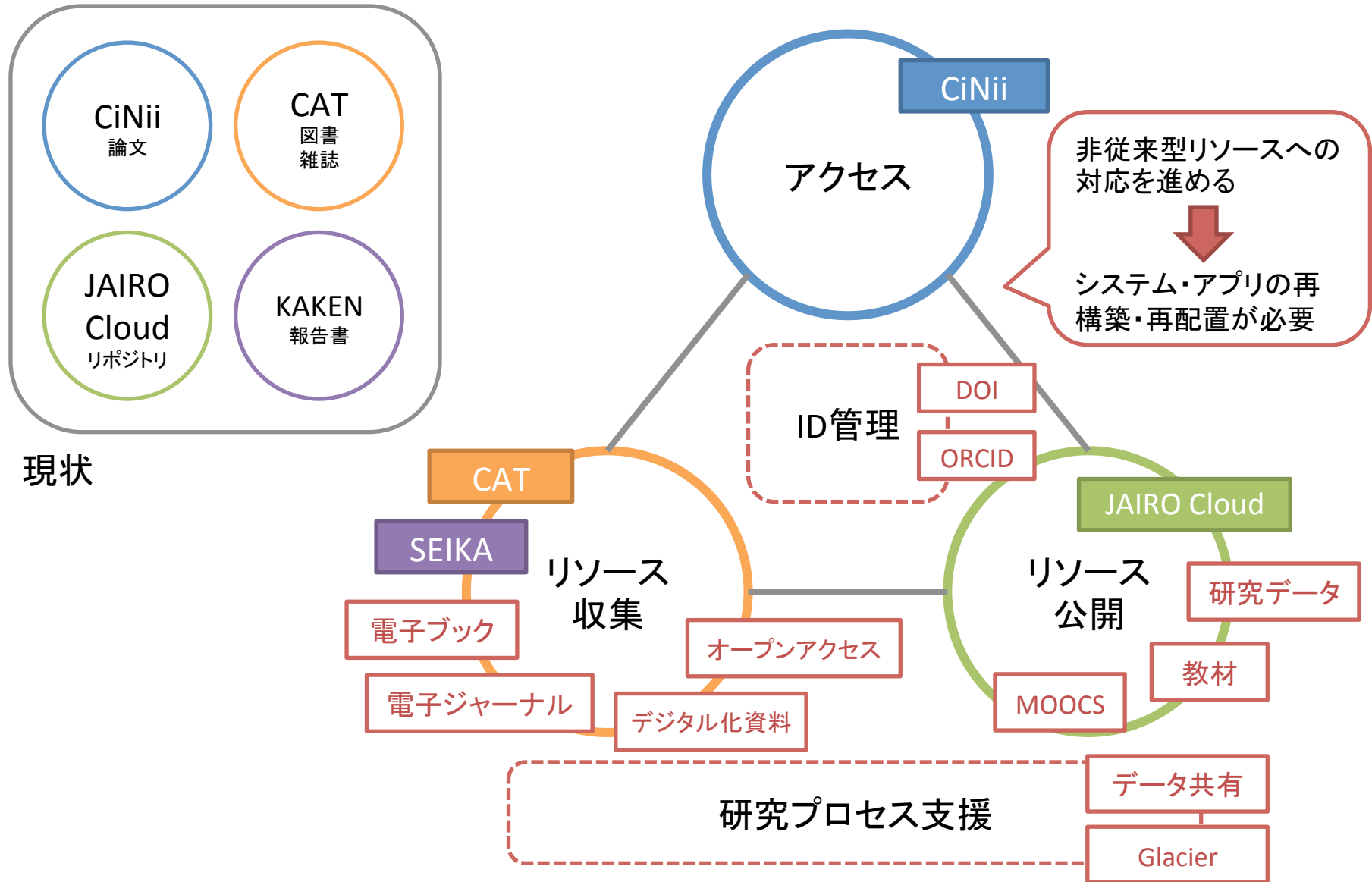


- ・ 書誌データは階層のない書誌構造とし、標準的な外部書誌をそのまま構築に使う
- ・ 現行の書誌も階層構造をなくし、データを移行する
- ・ 図書館システムから書誌・所蔵を登録できる
- ・ ERDBでは電子リソースの情報を管理する
- ・ 紙と電子の情報はCoreに集約し、名寄せを行う
- ・ 図書館システムはCoreで名寄せされた情報を取得できる
- ・ CiNiiでは名寄せされたCoreのデータを利用する
- ・ 書誌作成と書誌利用(ILL,検索)を分離する
- ・ CiNiiからも直接ILLの申し込みができる

# コンテンツ事業とCATリノベーション

2015.1.21

# コンテンツ事業の構造



# CATリノベーションの必要性

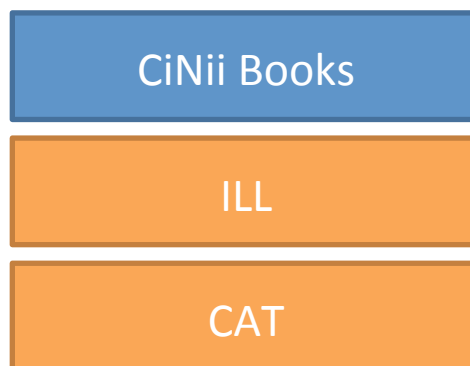
- レガシー
  - 18年前のアプリケーション(1997リリース)
    - CiNii(2009/2011)・JC(2012)・SEIKA(2015)
  - 業務系とサービス系の密結合
    - CAT・ILL・付帯系・Webcat(→移行済)
- 外部要因
  - 電子リソース・ID管理
  - オープンアクセス資料への対応
  - デジタル化資料への対応(NDL・国文研等)
- 業務の見直しとシステム再構築の両面からアプローチする

# CATリノベーションの基本方針

～2011.10



2011.11～2014.10



2014.11～2017.3



2017.4～



- 名寄せシステムを中心とした情報管理アーキテクチャへの転換
  - 多様な外部書誌への対応 (NDL・TRC・OCLC...)
  - 電子ジャーナル・電子ブックへの完全対応
- ILLアプリの切り離し
- Articles・リポジトリ検索 (JAIRO後継) とのUI統合へ

# 2020年の状況

- 上流での書誌データ作成とそれにともなう多様化・複雑化
  - 電子ジャーナル・電子ブック
  - オープンアクセス・オープンデータ
- CATの役割は単一のデータベース管理から複数の情報源のキュレーションへ
  - 図書館はナビゲーション(発見から入手まで)に注力

# CATリノベーション実施内容

- 名寄せシステム (Core)
  - 異なるデータ構造・記述ルールを持つ情報源を機械的に名寄せする
    - 識別子による名寄せ
      - IDDB: CiNii Books・ERDB連携のためのデータベース (稼働中)
    - 内容による名寄せ
      - CiNii Core: 機械学習による論文書誌・著者の統合 (稼働中)
  - 外部書誌を利用可能に
    - NDL・TRC・OCLC・ERDB・OA・旧CAT・その他独自書誌

# CATリノベーション実施内容

- CAT3.0
  - オリジナル書誌の登録システム
  - CATP・後継APIを通じて図書館システムと連携するためのインターフェイス
  - 独自書誌の爆発的增加を防ぐ
  - 簡易的な目録規則
- CiNii Books ILL
  - NACSIS-ILL後継・CiNii Booksベース
  - CAT書誌によらないILLをサポート(慶應・早稲田・海外)
- ERDB電子ブック対応



## 平成 27 年度活動計画について（案）

## 1. 基本方針

本委員会が「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進することを目的としていることを踏まえ、以下のような課題を整理し、検討・実施を進めてきた。

課題	進捗状況
全体（データ公開等）	H26 年度に CAT データの公開を実現
ERDB	H26 年度に運用方針等について検討
目録システム	H26 年度から検討開始
デジタイズ	H26 年度未着手

## 2. 平成 27 年度活動計画

平成 27 年度は上述の課題のうち、「目録システム」を中心に検討を進める。

## (1) 検討の進め方

各協会・協議会等で本件について取り上げていただくことも考えられるため、以下のようなスケジュールで、検討を進めていく。

	委員会	連携・協力推進会議等
平成 26 年度		
1 月	第 9 回	
2 月		第 9 回連携・協力推進会議
3 月		
平成 27 年度		
4 月		JANUL 地区総会、JASPUL 常任幹事会
5 月	第 10 回	JANUL 理事会
6 月		JANUL 総会、JAPUL 役員会・総会
7 月		第 10 回連携・協力推進会議、国公私協力委員会
8 月		JASPUL 総会
9 月		
10 月	第 11 回	
11 月		国公私協力委員会、JANUL 理事会、JAPUL 役員会
12 月		JASPUL 常任幹事会

1月	第12回	
2月		第11回連携・協力推進会議
3月		

## (2) システム構築

NIIにおいて名寄せ基盤第1次開発、後継ILL開発を行う。なお、必要に応じて作業部会を本委員会の下に設ける。